

# Windows 環境における Chrome ブラウザ の更新オプション

## はじめに

企業で働く多くの人々が、さまざまなデバイスでクラウドベースやブラウザベースのビジネスアプリを使用して日常業務を行っています。どこにいてもブラウザから会社のリソースにアクセスできるので、仕事の効率が飛躍的に高まった、と言うクラウドワーカーもいます。

ブラウザがミッションクリティカルなエンタープライズアプリケーションとなる一方、Windows 環境を管理する IT プロフェSSIONナルには課題となっています。

次のような課題です。

- 多くの企業は使用するブラウザを統一していない。
- IT チームにとって、セキュリティ確保のためにすべてのブラウザを最新状態に保つことは簡単ではない。
- ブラウザによってアプリとの互換性が異なる場合がある（特に従来のブラウザと最新のブラウザ）。

Chrome ブラウザは、ユーザーがそのブラウジング環境に慣れていることもあり、企業でもよく使用されています。また、エンタープライズ対応の最新ブラウザとして、エンタープライズ環境全体で迅速かつセキュアな更新を実現するために、Chrome では自動更新モデルが採用されています。

IT チームが直面している課題、特に Windows 環境の複雑性を考慮し、Chrome には、

管理対象の Microsoft™ Windows™ コンピュータで Chrome ブラウザとポリシーの更新を管理できるさまざまな管理者向けオプションが用意されています。管理者は、ユーザーごとに異なる更新チャンネルを使用できます。このテクニカルペーパーでは、更新に利用できる各種オプションについて説明するとともに、企業が Chrome ブラウザの管理方法を評価する際の推奨事項も紹介します。

## Chrome ブラウザの更新チャンネル



Chrome には、Stable、Beta、Dev、Canary の 4 つの更新チャンネルがあります。Beta、Dev、Canary チャンネルは Stable チャンネルと同じコンピュータ上で並列実行できるため、企業で簡単にテストを行えます。

## Stable チャンネル

Stable チャンネルは、Chrome テストチームによって十分なテストが行われているため、最も安全なバージョンです。脆弱性に対する重要な修正が含まれており、クラッシュなどの問題を回避するには最適です。マイナー リリースはおおむね 2~3 週間ごと、メジャー リリースは 6 週間ごとに更新が行われます。

### 推奨事項:

Beta チャンネルと Dev チャンネル（詳細は後述）に割り当てるユーザーを除いた組織内の全員に Stable チャンネルを割り当て、ブラウザを使用するミッションクリティカルなすべてのアクティビティに対応できるようにします。Stable リリースでバグを見つけた場合は、[crbug.com](https://crbug.com) で報告してください。

## Beta チャンネル

Beta チャンネルでは、リスクを最小限に抑えながら次のリリース内容を確認できます。Google は、Chrome リリースのバグリスト ([crbug.com](https://crbug.com)) に報告されたこのチャンネルに関する問題を積極的に調査します。Stable チャンネルにリリースされる前に、マイナー更新がおおむね 1 週間ごと、メジャー更新が 6 週間ごとに行われます。

すべての機能が全ユーザーに適しているとは限りません。Beta チャンネルを使用することで、組織全体へのロールアウトを計画的に行えるほか、ポリシーを使用して特定の機能を制御する方法を検討できます。テストデバイスで問題が見つければ、問題を報告するための準備期間を確保できます。次の Stable リリースまでに Google で問題が解決されない場合は、すべてのユーザーにロールアウトされる前に更新をブロックできます。

### 推奨事項:

組織の 5% (IT スタッフ、デベロッパー スタッフ、ビジネス ユーザーなど) を Beta チャンネルに割り当てます。また、複数の種類のハードウェアを使用している場合は、各ハードウェアの 5% を Beta チャンネルに割り当てることをおすすめします。これにより、複数のユーザーと複数のハードウェアでテストを行う期間を 6 週間確保できます。

## Dev チャンネル

Dev チャンネルを使用することで、今後リリースされる更新と機能を把握できます。Dev チャンネルのリリースは、Stable チャンネルのリリースの 12 週間前に行われます。Chrome ブラウザの早期リリースであるため、100% 安定しているわけではありませんが、IT スタッフやデベロッパー スタッフはこのチャンネルを使って、アプリとシステムが今後の更新と機能変更に対応しているかどうかを確認できます。更新は週に 1 回または 2 回行われ、メジャーバージョン間のタイムラグがないので、Google が保有するすべてのコードを入手できます。Dev チャンネルのビルドはテスト済みですが、バグを見つけた場合は Chrome リリースのバグリスト ([crbug.com](https://crbug.com)) にご報告ください。

### 推奨事項:

少数の IT スタッフと一部のデベロッパーを Dev チャンネルに割り当てることをおすすめします。これにより、Beta または Stable チャンネルのユーザーにロールアウトされる前に、環境に影響を及ぼす可能性のある変更を発見して報告できます。ほとんどの問題は Stable 版としてリリースされる前に Google 側で修正されますが、特定の環境のみに影響を及ぼすような特殊なケースについては把握できないこともあります。一部の IT スタッフとデベロッパーを Dev チャンネルに割り当てておけば、Beta または Stable チャンネルでのリリース前に、環境に影響を及ぼす可能性がある変更をすばやく特定して報告することが可能です。

## Canary チャンネル

Canary チャンネルのビルドは、テストなしで未使用のまま毎日リリースされます。Canary チャンネルのリリースは、Stable チャンネルのリリースの 12 週間以上前に行われます。バグは Chrome リリースのバグリスト ([crbug.com](https://crbug.com)) にご報告ください。

### 推奨事項:

Canary チャンネルは他よりも安定性が低いいため、業務上高度なテストが必要な場合を除き、スタッフを割り当てる必要はありません。

## Chrome の更新オプション



既知の脆弱性に対する保護が早いペースで提供され、ユーザーが Chrome ブラウザを再読み込みするだけで更新が適用されます。自動更新を適用したユーザーは全員が同じバージョンの Chrome ブラウザを使用している状態になるため、IT スタッフは手動で問題を修正する必要がありません。

### 推奨事項:

自動更新は、クラウドアプリの使用頻度が高いユーザーに適しています。IT 環境、運用ニーズ、セキュリティニーズを評価し、自動更新を使用できるグループと使用できないグループにユーザーを分けます。使用できないグループについては手動更新を検討し、できるだけ多くのユーザーとデバイスを計画的に自動更新に移行します。

## 手動更新

ソフトウェア配布要件を満たす更新を、組織の定期的な更新プロセスに合わせて定期的にプッシュできます。更新プロセスは IT 部門が管理し、ユーザーが自分で更新を適用することはできません。組織では、アプリケーションの互換性、テスト要件、チェンジ マネジメント、セキュリティ審査、または規制要件に対応するために手動更新が必要になることがあります。この場合は、できるだけ早くテストスタッフを Beta チャンネルと Dev チャンネルに割り当てるのが重要です。早期にテストを実施し、Chrome の最新バージョンに備えることができます。

### 推奨事項:

定期的に手動更新を実行し、できるだけ多くのユーザーが同じバージョンを使用するようにしてください。

## 更新の無効化

アプリの互換性確保やコンプライアンス遵守のために、特定のブラウザバージョンを長期間または無期限に使用する必要があるユーザーにのみ適しています。たとえば、一部の組織では、明白な承認や審査のプロセスを経ずにブラウザを更新することはできません。医療機関、金融サービス機関、防衛組織の多くはこれに該当します。このような組織では、基本的にユーザーが使用するブラウザのバージョンを IT 管理者が固定し、ユーザーはブラウザを更新できません。Chrome 65 以降では、管理者がポリシーを使用してバージョンを固定できます。

### 推奨事項:

明らかに必要な場合を除き、更新を無効にすることはおすすめしません。古いバージョンの Chrome は、セキュリティに関する既知の脆弱性によって、攻撃を受けやすい状態にあります。規制の厳しい業界で、ユーザーの Chrome ブラウザを特定のバージョンに固定する必要がある場合は、定期的に更新オプションを再検討してください。少なくとも年に 2 回は更新することをおすすめします。何人かの IT スタッフを Beta チャンネルに割り当てておけば、規制環境が変化した場合にすぐに更新を開始できるという利点があります。必要に応じて、バージョンの固定に関するポリシーを設定できます。詳しくは、Chrome の更新を管理する (Windows) をご覧ください。

## Chrome 更新のハイブリッドアプローチ

組織によっては、ハイブリッドアプローチで Chrome を更新するのが適している場合があります。ハイブリッドアプローチとは、ユーザーによって自動更新、定期的な手動更新、更新の無効化 (特定のバージョンを長期間使用) を使い分ける方法です。

このアプローチでは、ビジネスニーズに応じて複数の方法を組み合わせて Chrome を更新できるほか、自動更新によるセキュリティと効率性のメリットも引き続き享受できます。たとえば、さまざまな事業部門に大まかに対応する組織部門を設定し、一部の部門には自動更新モデル、別の部門に

は手動更新モデルを適用することができます。

この場合は通常、複数の事業部門の異なるアプリケーション ニーズや要件をしっかりと把握して、更新モデルを決定する必要があります。

## Chrome のポリシーテンプレートの機能

Chrome ブラウザ エンタープライズバンドルに含まれているファイルを使用すれば、管理対象の Windows デバイスに Chrome ブラウザをインストールして管理できます。Chrome ブラウザをユーザーのデバイスにインストールしたら、好みのオンプレミス ツール (Windows のグループポリシーなど) または Google 管理コンソールを使用して、デバイスにポリシーを適用できます。

### 次のことが可能です。

- 個々のユーザーではなく、デバイスレベルでポリシーを設定する
- OS ユーザーレベルでポリシーを設定する (指定のユーザーがデバイスにログインするとポリシーが適用される)
- ユーザーが変更できないポリシーを適用する
- デフォルトの設定を適用する (ユーザーが設定を変更できる)

Google はポリシーの設定に役立つポリシー テンプレート (ADMX および ADM) を提供しており、管理者はこのテンプレートをインストールして更新できます。テンプレートは、新しいバージョンに合わせて新しいポリシーで更新されますが、場合によっては、ポリシーのサポートが終了することもあります。自動更新を利用している場合でも、最新のポリシーを使用するには新しいポリシー テンプレートをダウンロードする必要があります。

#### 推奨事項:

新しいポリシーと変更予定のポリシーについては、Chrome Enterprise リリースノートをご覧ください。Dev チャンネルと Beta チャンネルのポリシー テンプレートをダウンロードして、事前に変更を確認することもできます。

## Chrome ブラウザの更新に関するその他の考慮事項

企業は、次のような Chrome ブラウザの機能の更新についても把握しておく必要があります。

- サードパーティの拡張機能の管理
- 従来のブラウザのサポート
- Adobe Flash Player の管理

#### サードパーティの拡張機能の管理

拡張機能の管理は Chrome ブラウザ エンタープライズバンドルに含まれています。このバンドルでは、拡張機能の利用と管理に関するさまざまなポリシーが提供されますが、更新プロセスは拡張機能ごとに異なります。拡張機能の管理には、自動更新、手動更新、更新の無効化、またはハイブリッドアプローチを使用できます。それぞれの拡張機能の詳細については、[Chrome ウェブストア](#)をご覧ください。

#### 従来のブラウザのサポート

組織で Chrome ブラウザを利用したくても、ユーザーが従来のウェブサイトやアプリにアクセスするために引き続き Microsoft Internet Explorer が必要な場合は、Chrome の「従来のブラウザのサポート」拡張機能を使用して、Chrome ブラウザと別のブラウザを自動的に切り替えることができます。従来のブラウザでの表示が必要なリンク (ActiveX を必要とするサイトなど) をクリックすると、自動的にその URL が従来のブラウザで開き、他のサイトにアクセスすると、Chrome ブラウザにシームレスに戻ります。

「従来のブラウザのサポート」拡張機能はエンタープライズバンドルに含まれており、Chrome ブラウザクラウド管理またはグループポリシーを使用して有効にできます。

#### Adobe Flash Player の管理

2020 年 12 月のサポート終了に伴い、多くの企業が Flash から移行していますが、組織によっては引き続き Flash が必要となる場合があります。Chrome のデフォルトの動作により、Adobe Flash Player はバックグラウンドでインストールされるか、ユーザーが初めて Flash コンテンツを含むページにアクセスしたときにインストールされます。また、デフォルトで Chrome コンポーネント アップデート ツールによって継続的に更新されるようになっています。これはベスト プラクティスとして推奨されていますが、IT 管理者はポリシーでコンポーネント アップデート ツールを無効にして、ユーザーの [Flash の利用](#)を管理することもできます。アップデート ツールを無効にする場合は、Flash の手動更新を確実に実行して、潜在的な脆弱性を回避する必要があります。

## 次のステップとリソース

Google は、企業が複雑なポリシーと要件に沿ってソフトウェアの更新を管理していることを理解しています。企業は、ソフトウェアの機能と互換性、セキュリティの更新、社内でのアプリケーションテストとポリシー管理、従業員のトレーニングなど、多くの重要な要素を考慮しなければなりません。このテクニカルペーパーで概説した更新チャンネル (Stable、Beta、Dev、Canary) とその他のオプションを利用することで、セキュリティと業務の効率性を維持しながら Chrome ブラウザを更新できる独自の戦略を作成できます。

**Chrome の更新方法を策定する際は、次の点に留意してください。**

- 組織で新規更新に使用できる帯域幅と許容誤差を判断します。
- セキュリティと更新タイミングとのトレードオフを判断します。
- Chrome のリリースノートとドキュメントを早めに確認します。
- Chrome の更新チャンネルを十分に理解して、テストの機会を最大限に活かします。
- IT スタッフ、デベロッパー スタッフ、ビジネス ユーザーの 5% を Beta チャンネルでのテストに割り当て、発見した問題を Stable チャンネルでコードが公開される前に報告できるようにします。
- ユーザーをいくつかの組織部門に分類して、自動更新を適用するユーザー、手動更新を適用するユーザー、ハイブリッド更新を適用するユーザーに分けることができないうか検討します。
- いずれかのチャンネルでバグが見つかった場合は、[crbug.com](https://crbug.com) で報告します。報告された問題は Chrome チームが積極的に調査します。

Chrome ブラウザ エンタープライズ サポートを購入して、組織内のユーザーに対する Chrome ブラウザの設定、導入、管理に関するサポートを受けることもできます。Stable、Beta、Dev チャンネルを対象に、エキスパートによる 24 時間 365 日体制のサポートが提供されます。手動で更新を管理する組織は、いつでもエキスパートに問い合わせることで問題を迅速に解決できるため、独自の更新のロールアウトを順調に進められます。

企業向けの Chrome ブラウザ機能について理解を深めるために、**必要に応じて次のリソースもご活用ください。**

**エンタープライズ版のダウンロード:**

[Chrome ブラウザ](#)

**詳細情報を知る:**

[Chrome ブラウザ エンタープライズ サポート ブラウザのスペシャリストに連絡する](#)

**探す:**

[Chrome ブラウザのポリシーリスト](#)

**最新情報を知る:**

[Chrome ブラウザ エンタープライズのリリースノート](#)

**調べる:**

[Chrome ブラウザ エンタープライズのヘルプ センター](#)[Chrome ブラウザのヘルプ フォーラム](#)

**確認する:**

[Chrome ブラウザの公開バグトラッカー](#)